

電話
山町 5・7788
古 4・2400
府黒門東 5・4131
島町 2・8880
隅中湯免 3・2500
日町 2・0294
5・6447
府川端 1・1080
北町 3・1841
芳町秋吉 2・0640
田温泉 2・6430
々良 2・0001
山 1・0452
区上織町 1・6246
区基町 3・2530
田市野原 3・8451
日市有明町 1・1860
府市石坂 3・2807
中央区 5・3551
多区 3・1100
戸畑区 2・7777
米市野中町 9・1131
あります。



和紙素材の糸と開発したニット
シャツを手にする國分博史さん
＝東京都墨田区の和興

和紙「しゃり感」 ニットTシャツ

縫製会社開発、「先進的」海外からも熱視線

衣服の生産過程で出る二酸化炭素や在庫廃棄などが課題のアパレル産業は、サステナビリティ（持続可能性）が求められている。そんな中、東京の縫製会社「和興」（東京都墨田区）が和紙素材のニットTシャツを開発した。生分解性があり、涼感ある着心地、吸湿性、抗菌性などにも優れ、海外からも先進性が注目されている。

このTシャツの素材は、福井県産の越前和紙の糸。和紙繊維製品メーカーのキュアテックス（同世田谷区）などと協力して開発し、試行錯誤の末に3年がかりで成功にこぎ付けた。和紙をテープ状に切ったものを通常の何倍もねじり合わせてあるという。

専務の國分博史さん(41)は「原料のマニラ麻はフィリピンに自生している多年草で、農業はほとんど使っていません。地中に埋めて約半年後に完全に土に帰ります」と話す。

和紙独特の「しゃり感」もある。機能性の検査を行うと、汗を素早く乾かし、繊維に細かい穴が開いていることで菌の繁殖を抑えることも分かった。多年生植物の樹皮には紫外線を遮断する力も。新型コロナウイルス

暮らしの広場

の拡大を機に、この和紙製マスクを販売したところ、「着心地が良い」と大きな評判を呼んだ。

今年1月には、イタリアで開催された世界最大級の服飾展示会ピッティ・ウオモにこのシャツを出品。海外のバイヤーから「先進的なサステナブルファッション」としてアピールできる」と評価された。米国のアパレルブランド、ドイツの小売店などからも声を掛けられ、國分さんは手応えを感じている。